

福島県立相馬支援学校

チーム相馬

「共に、支え合い・高め合う学校」



相馬地方唯一の
知的障がい
特別支援学校

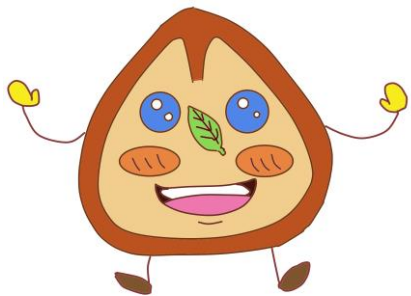


福島県

相馬支援学校 の沿革



旧校舎（相馬市中村）



マスコットキャラクター
来未（くるみ）ちゃん

昭和46年 4月 1日

相馬市立中村第一中学校を仮校舎に相馬市立
養護学校として創立

昭和47年 4月 8日

相馬市中村字本町に移転

昭和48年 6月

県内初の「養護母子学級」を開始

平成12年 4月 1日

高等部開設

平成22年 4月 1日

福島県立相馬養護学校 開校式

平成29年 4月 6日

校名を福島県立相馬支援学校に改正

令和2年 4月 1日

南相馬市鹿島区寺内に新築移転



旧校舎（相馬市中村）

相馬支援学校の概況



小学部 33名

(通常の学級 : 28名 重複障がい学級 : 3名 訪問学級 2名)

中学部 24名

(通常の学級 : 22名 重複障がい学級 : 2名)

高等部 52名

(通常の学級 : 48名 重複障がい学級 : 4名)

全児童生徒数 109名

※ 医療的ケア児 計2名

学部	小学部						中学部			高等部			計
学年	1	2	3	4	5	6	1	2	3	1	2	3	
通常の学級	6	10	3	2	4	3	11	5	6	21	14	13	98
重複障がい学級		1	1		1		1	1			2	2	9
訪問学級	1	1											2
計	7	12	4	2	5	3	12	6	6	21	16	15	109

相馬支援学校の研究のはじまり

平成31年4月 当時の校長による
意図的なチーム編成から一歩を進める。

校長から、「相馬支援学校の教育課程の抜本的見直しに係る改善及び必要な方策等について」の諮問を受ける。

新しいカリキュラムを創造
するプロジェクトチーム
(平成31年4月任命)

改革の準備段階

「チーム相馬」としての取り組み ～共に支え合い、高め合う～

【高め合う】

- ①組織での段階的な
取り組み
- ②全職員で教育課程
に向き合う

【支え合う】

- ①単元研究会
- ②OJL(組織学)
研修
- ③教師寺子屋

高め合う

①組織での段階的な取り組み

相馬支援学校の教育
課程の抜本的見直しに
係る改善及び必要な方
策等について
(答申)
(令和元年8月29日)

学習指導要領に基づいた徹底した議論

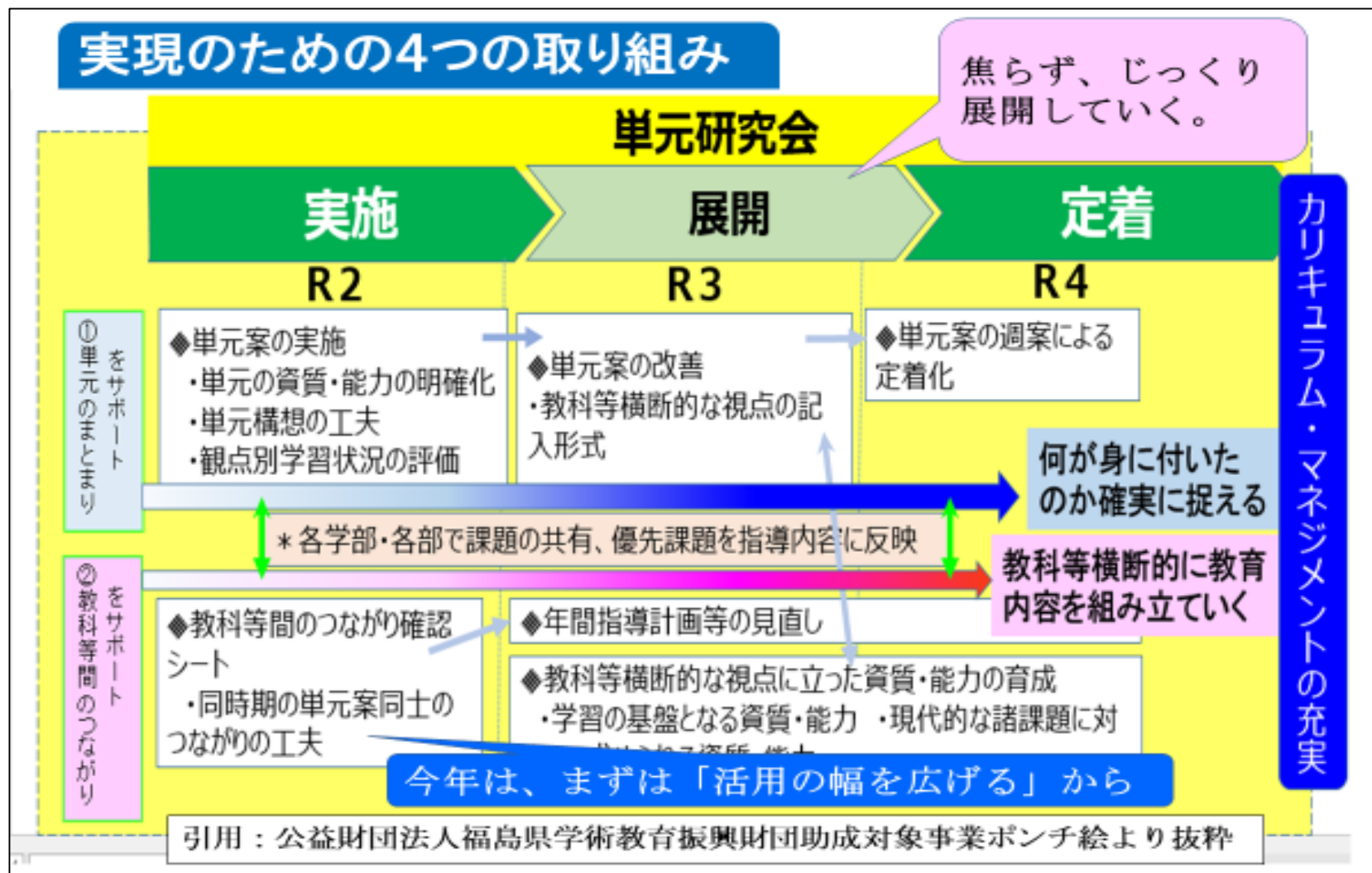


- ・学校教育目標設定の手順
- ・共通的事項
- ・カリキュラム・マネジメント
- ・本校の現状

“取り組むべき内容”と“学校独自の内容”を明確に区別

高め合う

①組織での段階的な取り組み



高め合う

②全職員で教育課程に向き合う

【R元年度】

- ・ 本本当に運営上必要な会議の精選や各部でのグラウンドデザインによる役割の明確化を図る。
- ・ 学校の強み、弱みを分析し、課題の対応策を考える。（SWOT分析）それらを踏まえて教育課程編成を行う。



高め合う

②全職員で教育課程に向き合う

【R2年度】

- ・「教科等横断的な視点に立った資質・能力」を考え、整理し、教育課程を文言化する。
- ・通称V作戦（12年間の学びを見通した年間指導計画）や年間単元配列表の作成に着手した。



高め合う

②全職員で教育課程に向き合う

【R3年度】

- ・特別の教科道徳、特別活動、総合的な探究の時間のこれまでの単元配列等を再度検証する。
- ・ICTプロジェクト、1段階プロジェクト（障がいの重い子どものための学び）等任意で問題解決を目指す集団がきょういを後押しした。



支え合う

①単元研究会

【指導型】

- ・ 授業者の自評
- ・ 教員の感想と指導助言



【支援型】

- ・ 授業改善のアイデア
- ・ 授業者を支える仕組み



【協議型】

- ・ 単元研究会での学習評価
- ・ 単元構想のアイデア
- ・ カリキュラムマネジメント

令和元年度全体研修会の様子



令和2年度グループ研修会の様子



令和3年度単元研修会の様子

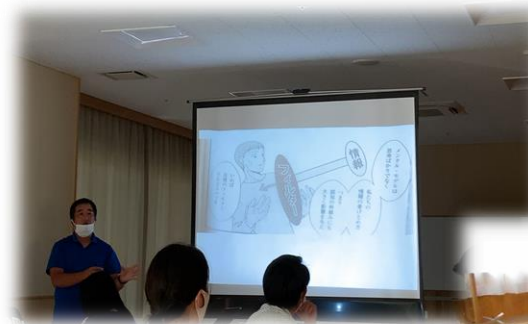


支え合う

②OJL(組織学)研修

悩むところは“どうやるか”

道筋を学び、心理的安全性の確保
を行い、ファシリテーションの力
を育成し、教職員が主体的に活動
する組織風土へ。



学んだ教員からの
レクチャー



オンライン研修



今年やっと来校いただ
いての講演を実現！

支え合う ③教師寺子屋



ICT支援員より



学習評価とは...



効果的なICT活用法

学びたい人が
学びたいことを
学べる環境作り
人材の活用と育成へ



働くママの座談会



スイッチ教材作り



企業目線で...

本校の今年度の研究は、準備期間を含めると約4年間の集大成となります。本日の学校公開にて、多くのことを、たくさんの人と共有できればと思います。

